Mozartの歌劇

Wolfgang Amadeus Mozart (27 January 1756 – 5 December 1791)が作曲した声楽を使った舞台用の音楽は以下の通りです．K. 番号順に並べられていますので、およそ年代順です．

K.	作品タイトル	作曲年	分類
35	第一戒律の責務(Die Schuldigkeit des ersten Gebots)	1767	宗教的 SS./Oratorio
38	アポロとヒュアキントゥス(Apollo et Hyacinthus)	1767	Latin語 詩劇　OS.
50	バスティアンとバスティエンヌ(Bastien und Bastienne)	1767	SS.
51	みてくれの馬鹿娘(La finta semplice)	1768	OB.
87	ポントの王ミトリダーテ(Mitridate, re di Ponto)	1770	OS.
111	アルバのアスカニオ(Ascanio in Alba)	1771	祝典劇
126	シピオーネの夢(Il sogno di Scipione)	1771	劇的セレナータ
135	ルーチョ・シッラ(Lucio Silla)	1772	音楽劇
196	にせの女庭師(La finta giardiniera)	1774	DG.
208	牧人の王(Il re pastore)	1775	セレナータ
334	**ツァイーデ(Zaide)**	1779-80	SS.　未完
366	クレタの王イドメネオ(Idomeneo, re di Creta)	1780-81	OS.
384	**後宮からの逃走(Die Entführung aus dem Serail)**	1781-82	SS.
422	カイロの鵞鳥(L'oca del Cairo)	1783	DG.　未完
430	だまされた花婿(Lo sposo deluso)	1783	OB.　未完
486	劇場支配人(Der Schauspieldirektor)	1786	音楽付き喜劇
492	**フィガロの結婚(Le nozze di Figaro)**	1785-86	OB.
527	ドン・ジョヴァンニ(Don Giovanni)	1787	DG.
558	コジ・ファン・トゥッテ(Così fan tutte)	1789-90	DG./OB.
620	**魔笛(Die Zauberflöte)**	1791	ドイツ語オペラ
621	皇帝ティートの慈悲(La clemenza di Tito)	1791	OS.

SS. Singspielは、ドイツ語による歌芝居や大衆演劇.
語り台詞、大げさな演技、俗謡の引用、民謡調の有節形式のアリアが特徴です.

OB. Opera Buffaは、カストラートを使うことはなく、basso buffo(道化バス)を重視します.
basso buffo のアリアや独唱は極めて速いテンポで、滑稽さを演出する音の跳躍が特徴で、滑舌の良さが求められます．早口言葉そのもののアリアが出てきます.

OS. Opera Seriaは、台本にイタリア語を使い、内容は高貴かつシリアス．フランス以外で、カストラートを好んで使います．アリアはda Capo ariaの様式を中心に使い、歌手の装飾を重視し、後にPrima donnaを生み出します.

劇的セレナーデ(Serenade)は、台本も構成も小規模な劇音楽を指しています.

DG. Dramma giocoso(ドラマ・ジオコーソ)は、Veneziaの劇作家 Carlo Osvaldo Goldoni (1707 – 1793)によって、1750年頃に流行したOperaの形式です．dramma giocoso per musicaが本来の言葉で、音楽のためのおどけた(giocoso)劇ですので、台本を指す言葉です．各幕の最後の劇的なクライマックスに、大規模な喜劇的な場面があるのが特徴です．歴史的に見て、Oper buffaの古い形式として位置付けます.

ケッヘル目録(Köchelverzeichnis)は、Österreichの音楽学者 Ludwig von Köchel (1800 – 1877)が1862年に出版した、W.A.Mozartの作品目録です．この目録で使われている作品番号がケッヘル番号で、音楽作品を時系列的にまとめています．ケッヘル番号は、Köchelverzeichnisの言葉がそのまま使われ、ドイツ語圏ではKV.の省略形、以外ではK. が使われています.

ZAIDE　Kv.344　　未完成のドイツ語の歌芝居(Singspiel)

この作曲の経緯は明らかになっていません．ただ、父Leopoldとの手紙からはなかなか進まない様子が判ります．結局、脚本が巧くなかったこと、セリエ風の内容がWien等で受けなかったことが原因で、未完に終わっています．1780年作曲、未完に終わって長く知られることなく、1799年に遺品の中から音楽とMelologue(メロローグ, 器楽伴奏と掛け合いながら台詞を喋る)部分が発見されています．Mozartが書いた唯一のMelologueです．1839年の出版に際し、欠けていた序曲と台詞部を補い、上演できる形が整えています．現在の演奏では、Mozart以外の手が入った部分は新たに創作したり脚色しています．

話の舞台はトルコで、ヒロインのZaideは囚われのヨーロッパの娘、彼女が恋する相手は、ヨーロッパの貴族ゴーマツで、トルコのスルタン(سلطان sultān;太守、国王)の奴隷となっています．スルタンの別荘の番人Osmin (オスミン)まで登場し、最後もスルタンの慈悲で恋する二人はヨーロッパへ帰ることを許されるという話です．2年後に書かれる「後宮からの誘拐」と似た(同じ)筋書きです．後宮が大当たりしますので、もはや完成することはなかった訳です．しかし、書かれたアリアには魅力的な作品があります．

そして、その後の人気のあるオペラと比べると、登場人物の役割と声楽音域の使い方は面白い例があります．スルタン役がBassでなくTenoreでアリアを歌います．珍しいです．「後宮」の太守Selim(セリム)は歌わず台詞だけの役で、これと比べると、やや御曹司風になっています．

このZaideに出てくる、Zaideのアリア「安らかにお休みなさい」は、ソプラノのリサイタルなどで良く取り上げられる人気のあるアリアです．劇の中で、恋心を秘めそっと「お休み」と歌います．歌曲として決して易しい曲とは言えませんが、美しい旋律とともに難しさの無い音楽が親しみ易い名作としています．歌詞の内容も併せて、親しみ易い音楽はSingspielの特徴の一つです．

第1幕　第3場　Zaideのアリア

Ruhe sanft, mein holdes Leben,
schlafe, bis dein Glück erwacht;
da, mein Bild will ich dir geben,
schau, wie freundlich es dir lacht:
Ihr süssen Träume, wiegt ihn ein,
und lasset seinem Wunsch am Ende
die wollustreichen Gegenstände
zu reifer Wirklichkeit gedeihn.

安らかにお休みください　私の大切な命たるお方
お眠りください、あなたの幸せが目覚めるまで
さぁ　わたしの絵姿をあなたに差し上げましょう
ご覧ください、親しげにあなたにほほ笑んでいます
甘い夢よ　この方を眠らせて差し上げて
そして最後にはこの方の望みが叶って
喜びに満ち溢れたことが
豊かに実現しますように

Direction : Raphael Pichon / ラファエル・ピション
Soprano : Sabine Devieilhe / サビーヌ・ドゥヴィエル
L'Orchestre Symphonique de la Monnaie. / ラ・モネ管弦楽団*
26.02.2021

*La Monnaie : Belgiqueベルギー・Bruxelles ブリュッセルにある歌劇場
ベルギー王立歌劇場Théâtre Royal de la Monnaie

Mozartの歌劇

“Die Zauberflöte” 魔笛より　Der Hölle Rache kocht in meinem Herzen
復讐の炎は地獄のように我が心に燃え

1787年から1801年まで、Wien郊外のWieden地区にあった劇場、Das Freihaustheater(フライハウス劇場)用に、エマヌエル・シカネーダー(Emanuel Schikaneder)の依頼で書かれています. シカネーダーの興行は一般市民を対象として、形式ばらずに判りやすさを優先しています. 歌や会話の言語はドイツ語で、Recitativoではなく台詞で筋を進行する、Singspielの形式を用いています.

Emanuel Schikaneder
(1751 – 1812)

Mozartの最後のオペラ魔笛は、Singspielの形式を使っていますが、登場する夜の女王とザラストロは、悲劇的な背景を持った役柄で、一方、道化的なパパゲーノも大きな役割を果たします. また、第1幕と第2幕のFinaleには、音程の付いた台詞、Recitativo (secco, accompagniato)も使っています. Mozartの魔笛は、発展形のSingspielとなっています. ドイツ語オペラと分類する場合もあります.

この魔笛の夜の女王のアリアDer Hölle Racheは、音域が広く、高く、力強さも求められる難曲となっています. 1791年9月30日の初演では、Mozart の妻Constanze の姉で、フライハウス劇場のPrima donnaの Josepha Hoferが歌っています.

Royal Opera House,
　Covent Garden in 2003
指揮 : Sir Colin Davis
監督 : David McVicar
Königin der Nacht : Diana Damrau
Pamina : Dorothea Röschmann
Tamino : Will Hartmann
Orchestra of the Royal Opera House

Diana Damrau

Will Hartmann

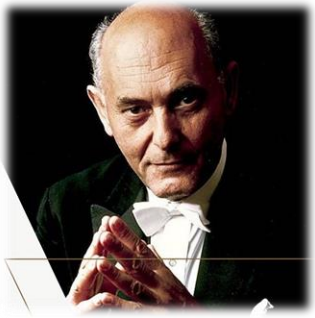
Sir Colin Davis

フィガロの結婚　Le Nozze di Figaro, KV.492

伯爵 - Carlos Àlvarez
Figaro - Markus Werba
Cherubino - Marianne Crebassa
Bartolo/Antonio - Andrea Concetti
伯爵夫人 - Diana Damrau
Susanna - Golda Schultz
Barbarina - Theresa Zisser
Don Basilio/ Don Curzio - Kresimir Spicer
二人の農民の娘 - Francesca Manzo, Kristin Sveinsdottir

指揮 - Franz Welser-Möst
Teatro alla Scala Chorus and Orchestra.
　ミラノ・スカラ座管弦楽団/合唱団
　オペラ制作 - Frederic Wake-Walker
　スカラ座(Teatro alla Scala) 2016

Franz Welser-Möst


Sir Georg Solti

Cherubino “Voi che sapete" : Frederica von Stade
指揮 : Sir Georg Solti / Paris Opera Garnier in 1980.
　Lucia Popp (Susanna),
　Gundula Janowitz (Contessa Almaviva)
　Federica Von Stade (Cherubino)

Mozartの歌劇

フィガロの結婚(Le nozze di Figaro) Kv.492

1786年5月1日、Wienのブルク劇場(Burgtheater)*で初演し、翌年Praha (Prague)で人気を博してPrahaを訪ずれ、この時に第38番交響曲 D-Dur, Kv.504 愛称 “Praha”を書き上げています.

第38番交響曲の第1楽章、Adagioのゆっくりした序奏が終わり、Allegroの速い音楽となり、木管が主題を呈示します. この時の低音の対旋律は、フィガロの結婚の1幕最後の有名なアリア「もう飛ぶまいぞこの蝶々; Non più andrai」からとされています. そして、この後に、スザンナのアリア「膝をついて」が現れるとされています. 譜面を見比べれば、すぐに見つかります. Mozartにとって引用することは造作も無いことです. が、果たしてどこまで考えていたのでしょうか？

*ブルク劇場(Burgtheater)は、宮廷の劇場として使われていた劇場です.
現在のWienにあるBurgtheaterは、UniversitätsringのRathausplatz/Burgtheaterの位置に、1888年に完成 (1945年の爆撃と火災で焼失、1955年に再建)した劇場です.
Mozart, Beethovenの時代の旧ブルグ劇場は1741年3月14日、Hofburg Wien近くMichaelerplatzにMaria Theresaが建築しています. 450mほど離れた所にありました.

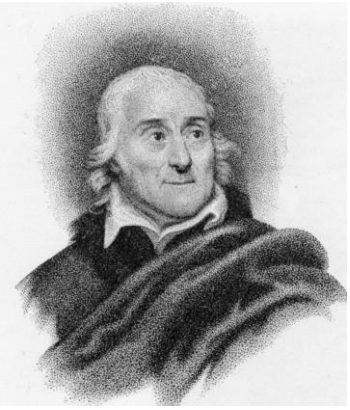
戯曲は「フィガロ三部作」フランスの劇作家ボーマルシェ(ペンネーム ; Beaumarchais)
(本名 : ピエール＝オーギュスタン・カロン ; Pierre-Augustin Caron)の書いた風刺的な戯曲
1. 喜劇『セビリアの理髪師』(1775年) : パイジエッロ(1782), ロッシーニ(1816)がオペラ化
2. 喜劇『フィガロの結婚』 (1784年) : Mozart(1786年)
3. 正劇『罪ある母』 (1792年) : ミヨー(1964年)がオペラ化

オペラの台本は、ボーマルシェの戯曲に基づき、イタリア人台本作家ロレンツォ・ダ・ポンテ(Lorenzo Da Ponte)が伊語で書いています.

主人公のフィガロは貴族の家に仕え、フィガロの結婚式を巡って、貴族を痛烈に批判していますので、何回も上演禁止となっています. しかし、この戯曲の面白さは大人気となり、人々からの強い要請を無視できず、公演許可を出すに至っています.

このような危険な作品をオペラ化し、神聖ローマ皇帝 Joseph II世のお膝元、Wienで上演できた理由は不明です. Da Ponteの自伝によれば、巧く皇帝を懐柔したとなっています.

Pierre-Augustin Caron de Beaumarchais (1732 – 1799)



Lorenzo Da Ponte (1749 – 1838)

Wolfgang Amadeus Mozart (1756 – 1791) (c.1780)

Posthumous painting by Barbara Krafft in 1819

登場人物

まず、主人公の**フィガロ**は、好色の伯爵、**アルマヴィーヴァ伯爵**の家に仕えています.
前作のセビリアの理髪師では、**ロジーナ伯爵夫人**を伯爵に引き合わせています. その功のお陰で、理髪師兼何でも屋のフィガロは、伯爵の家来となっています. フィガロが結婚する相手は、同じく伯爵の家に仕えている小間使いの**スザンナ**です.
伯爵はフィガロが結婚するというので、以前廃止した「**初夜権**」を復活させようと画策します. フィガロは策を巡らせます。。。

そこに、フィガロを邪魔しようと現れるのが、医者の**ドン・バルトロ**です. 前作のセビリアの理髪師ではロジーナの後見人でロジーナと結婚したがっていたのですが、フィガロの計画で伯爵に持って行かれてます. フィガロに恨みがあります.
もう一人、女中頭の**マルチェリーナ**が登場します. 彼女は教養もあり、美人で、ちょっと婚期を逸している感があり、フィガロにお金を貸し「借金を返せなかったら結婚する」という証文を持っています. バルトロはこの証文を見て、仕返しをしようと悪巧みを….

更に話を面白くしているのが、伯爵の小姓(Page)、女性なら誰でも恋してしまう思春期の少年、**ケルビーノ**です. ケルビーノはロジーナ伯爵夫人に、夢中になりはじめています. この役は、Mezzo sopranoによる「ズボン役」です.

この他に
やや説教くさい音楽教師の**ドン・バジーリオ**、伯爵の言いなりの判決を出す裁判官の**ドン・クルツィオ**、庭師の**アントニオ**と、その娘**バルバリーナ**はケルビーノと仲が良く、スザンナはアントニオの兄弟の娘、スザンナとバルバリーナはいとこです. この娘が話をややこしくします.

オペラの脚本 (Libretto)

作曲家は脚本に従ってオペラを組み立てて行きます. 脚本にどこまで忠実に作曲し、もしくは演じるのかは自由です. しかし、物語全体の筋書きに、時代考証を含めて整合を取り、物語に色彩を加え、息を通していきますので、脚本に沿って作業を進め、後から効果などの為に、脚本に手直しするのが一般的です. フィガロの結婚の脚本は以下の様になっています.

Le Nozze di Figaro : Libretto
Atto prima - Scena prima　第1幕 – 第1場
Camera ammobiliata: un seggiolone in mezzo. 家具の無い部屋 : 中央に背の高い椅子 ; ト書き
Susanna e Figaro.　スザンナとフィガロ
Figaro con una misura in mano, e Susanna allo specchio, che si sta mettendo un cappellino ornato di fiori.
Figaroはメジャを手に、Susannaは鏡に花で飾られた帽子を写して見ています.

FIGARO (*misurando la camera*)　部屋を測っています
　　Cinque... dieci... venti... trenta...trentasei... quarantatré...　　; 台詞
SUSANNA (*fra sé, guardandosi nello specchio davanti al quale sta provandosi un cappellino ornato di fiori*)　鏡の前で、鏡の中の彼女を見て、花で飾られた帽子を試しています
　　Ora sì ch'io son contenta: sembra fatto inver per me.　　; 台詞

Mozartの歌劇

アリアと、およその物語の流れ

「**フィガロの結婚**」**序曲**で始まります．オペラの演奏会では、序曲が終わろうとすると幕が開くことが多いです．(今回の演出は違います)

第1幕　第1場　序曲が終わると、フィガロとスザンナが新しい部屋に居ます．
No.1 小2重唱(Duettino)フィガロ、スザンナ : “Cinque... dieci... venti...”, “5…10…20…“
フィガロは伯爵から貰った部屋に喜び、伯爵から贈られるベットが入るか寸法を測っています．スザンナも結婚式の準備をしていますが、**伯爵に狙われている**ことを知って、喜んではいません．
No.2 小2重唱(Duettino) : “Se a caso madama la notte ti chiama”
“もし、夜に奥様がおまえを呼ぶなら“
伯爵が何を企んでいるのかをフィガロに伝えて行きます．

第2場　フィガロが一人で部屋にいます
伯爵の企みを知ったフィガロは「あなた様の思い通りにはさせない」と歌います．
No.3. Cavatina “Se vuol ballare Signor Contino” “もし踊りたければ、伯爵殿”

第3場　バルトロとマルチェリーナの登場
伯爵を怒らせ、フィガロとスザンナの結婚話を無くそうとします．マルチェリーナの手元にあるフィガロの「借金を返せなければ結婚する」の証文を見て、バルトロはフィガロは借金を返せずにマルチェリーナと結婚させる、という**悪巧み**を立てます．

第5場　スザンナが登場し、続いてケルビーノが登場します．　**ケルビーノ疑惑①**
庭師アントニオの娘バルバリーナと一緒にいたところを伯爵に見られ追放されそうなので、伯爵夫人にとりなしてほしいと懇願します．ケルビーノは女性なら誰にでもときめいてしまう「お年頃」です．
No.6 ケルビーノ “ぼくには自分がどうなっているのかわからない”,
“Non so più cosa son, cosa faccio”

割愛

第6場　そこへ伯爵がスザンナを口説きにやって来ます．
ケルビーノは慌てて椅子の後ろに隠れます．伯爵が口説き始めるとすぐに、音楽教師のバジリオが現れます．今度は伯爵が慌てて椅子の後ろに隠れ、ケルビーノは椅子の前に回り込み、布を掛けて隠れます．

第7場　バジリオは当事者が隠れているとは知らずに、ケルビーノと伯爵夫人の間の話を始めます．「ケルビーノが奥様に色目を使っている」と・・・　**ケルビーノ疑惑②**
これを聴いた伯爵は思わす立ち上がり「何のことだ?」と迫ります．伯爵は「庭師アントニオの娘のバルバリーナとケルビーノが一緒に見ている」と話しながら、椅子の布を持ち上げ、隠れていたケルビーノを見つけます．
疑心暗鬼の伯爵は、ケルビーノを連隊に赴任させることを命じます．

第8場　フィガロが村の娘たちを連れて登場します．フィガロは村人とともに、忌まわしい**初夜権**を廃止させた事を褒め称えます．復活させることが無いように、伯爵に初夜権廃止を再確認を迫ります．伯爵は、困惑しながらも、廃止を改めて宣言しますが、「盛大に式を挙げさせてやりたいからもう少し時間が欲しい」と村人を帰し、話は中断されます．

がっかりするフィガロは、ケルビーノの浮かない顔に気づき、事情を聞きケルビーノの出征を知ります．ここでケルビーノを励まし、幕を閉じます．
No.9 フィガロ “もう飛ぶまいぞこの蝶々, Non piu andray,farfallone amoroso"

第2幕　伯爵夫人の部屋

第1場　伯爵夫人は夫の愛が冷めたのを嘆いています．幸せが永遠に続くと思っていたのに、いつの間にか涙にくれる日々に。。。それでも、あの頃の幸せな思い出は胸から消えることはありません．
No.10 伯爵夫人 Cavatina “愛の神よ、安らぎを与えたまえ, Porgi amor qualche ristro“

第2場　そこへスザンナ、ケルビーノが登場します．フィガロの計画が巧く行かなかったので、**伯爵夫人とスザンナは計画を立てます．伯爵の悪さを暴く**ために、囮捜査をしようとします．伯爵をスザンナの名前で呼び出し、ケルビーノを女装させて、会っている所を見つけて、動かぬ証拠としようという計画です．
No.11 ケルビーノ Arietta “恋ってどんなものかご存じで, Voi che sapete che cosa e amor“

第3場　スザンナが部屋を離れると、扉を叩く音と伯爵の声がします．伯爵夫人はあわててケルビーノを隣の部屋に隠します．伯爵は、夫人が落ち着かないのを見て詮索します．するとケルビーノが隣で音を立ててしまいます．「あれは何だ？」と問う伯爵に「スザンナが結婚式の衣装に着替えているのです」と言い訳します．伯爵は、部屋を開けて見せろと言い、伯爵夫人は失礼なと断ります．伯爵は鍵を壊してでも入ると言い、夫人の部屋を施錠して夫人とともに道具を取りに出ていきます．

第4場　部屋の陰に隠れていたスザンナは、ケルビーノを2階の窓から逃がし、自分は部屋に戻り待ち受けます．

第7場　伯爵夫妻が戻って扉を開けると、スザンナが出てきます．伯爵は非礼を詫び、夫人も初めは事情が判らないまま、スザンナの耳打ちで悟り、夫をやり込め、最後は寛大に許します．

第9, 10場　フィガロと続いて(第10場)庭師アントニオが登場します．夫人の部屋の窓から何かが落ちて、植木を壊したと訴えます．怪しむ伯爵とアントニオに、フィガロは「スザンナを待っていたが、伯爵の声がしたので慌てて飛び降りた」と何とか言い込めます．

第11場　そこにバルトロとマルチェリーナとバジリオの3人が登場します．
例の証文で訴訟を起こすと言います．伯爵はこれで巧く行くと思い、結婚式の前に裁判を行うことにします．各人、それぞれに思惑を含んで、第2幕を閉じます．

割愛

第3幕　豪華な大広間

第2場　スザンナはマルチェリーナの証文騒ぎから逃れる為に、伯爵夫人とスザンナの2人だけで、**伯爵を罠にかけようと計画を練り直します**．
スザンナは、伯爵に今夜の結婚式の後で、2人で会う約束を承諾します．

第3場　そこへ裁判に出るフィガロが登場します．フィガロに「裁判に勝たなくても結婚できるわよ」と耳打ちします．これを聞いた伯爵は怪しみつつ、裁判が始まります．

第3幕　第5場　裁判が終わり、退廷して来ます.

伯爵の言いなりの裁判官クルツィオは、マルチェリーナの訴えを認める判決を下します.

「借金を払うか結婚するか」と迫るマルチェリーナに対し、フィガロは「俺は貴族の出だから親の許しがないと結婚はできない」と、そんないい加減な話は信じられないと伯爵たちが「証拠を見せろ」と言うと、フィガロは「幼いときにさらわれたので親はわからないが・・・腕には紋章がある」と言います.
これを聞いたマルチェリーナは真っ青になり、フィガロに右腕を見せろと言います. 何故右腕と知っている？と思いながら、フィガロは腕を見せます. マルチェリーナは慌てます. フィガロは、かつて、盗賊に盗まれたマルチェリーナの赤ん坊だったのです. しかも父親はバルトロだと言います. 昔、バルトロ家の女中をしていたマルチェリーナにバルトロが生ませた子がフィガロだったのです. 「親子ならば結婚は成立しない」と判事が判決を取り消します. 親子とわかった3人は抱き合って大喜びです.

そこにスザンナが「奥様からお金を借りたので、フィガロの借金を返します」と言って走り込んで来ます. なんとフィガロがマルチェリーナと抱き合っています. 「何を？」とスザンナは憤慨し、「違うんだ実は訳が」と近寄るフィガロの横っ面を張り倒します. マルチェリーナがスザンナに向かって「さあ、お義母さんを抱いておくれ」と言うのを聞いても事態を飲み込めませんが、スザンナが皆に「母親?」と聞くと、皆は「彼の母親」と応えます. 更に、バルトロが「お義父さん！」と・・・混乱したスザンナも、最後はどうにか納得します. 作戦に失敗した伯爵と裁判官クルツィオも加わります.

この**青線で囲った**、唐突な物語の展開は、Opera buffa名物の混乱の場面です. Mozartは、これを、スザンナ、フィガロ、マルチェリーナ、バルトロ、伯爵、クルツィオのRecitativoと6重唱アリアにまとめています. 見事なアリアになっています.

No.18 Sestetto : Susanna, Marcellina, Don Curzio, Count, Bartolo, Figaro
“Riconosci in questo amplesso”, “この抱擁は母のしるし”

この曲はMozart自身もお気に入りだったようです. バルトロとマルチェリーナは、この際、フィガロたちと同時に結婚式をあげることになります.

第8場　伯爵夫人が一人で、スザンナの帰りを待つ間、彼女は伯爵との愛が幸福から涙に変わった理由を疑問に思ってこのアリアを歌います. そして歌の最後には、自分の誠意が夫の心を変えてくれるかも、という、一縷の望み、希望の光が差します.

No.19 伯爵夫人 “スザンナは来ない, E Susanna non vien”
“楽しい思い出はどこへ, Dove sono i bei momenti”

第10場　そして、**浮気者の伯爵をおびき出すための手紙**を書くのが「手紙の2重唱」です.
スザンナは、伯爵に罠をかけたこと、裁判の後の唐突な展開を夫人に話します.
No.20 伯爵夫人, スザンナCanzonetta 2重唱 : 手紙の2重唱
“風に寄せ…何と優しい西風, Sull'aria ... che soave zeffiretto”

第3幕の最後、結婚式の最中、策略の手紙はスザンナから伯爵の元に届きます. これを受け取ったとして、止めていたピンをスザンナに戻そうとします. フィガロは「伯爵が誰かから手紙を貰った」ことを察します. **第3幕の最終部　抜粋版(結婚式)**

第4幕　夜の伯爵邸の庭　東屋 (今回の演奏では、脚色が異なっています)

第1場　バルバリーナがカンテラを手に何かを探しています (結婚式を挙げていた部屋)
No.23 曲 バルバリーナ Cavatina
“失くしてしまったの…困ったわ, L'ho perduta, me meschna!“

第2場　それをフィガロが見つけ、何をしているのかと声をかけます. バルバリーナは「伯爵から手紙を止めていたピンを探してスザンナに届けるよう頼まれた」と応えます. フィガロは鵜呑みにして、策略とも知らず、スザンナを疑って、スザンナの浮気を暴こうとします. マルチェリーナはそんな筈が無いと、何か事情があるのだろうと察します.

第9場　スザンナと伯爵夫人が衣装を交換して登場します.
スザンナはマルチェリーナからフィガロが来ていることを知らされます.

第10場　スザンナは、フィガロが浮気を疑い様子を伺っているのを知っています.
No.27 スザンナ Recitativo “やっと待っていた時が来た, Giunse alfin il momento”
アリア “さあ早く来て，いとしい人よ, Deh vieni,non tardar”

第11場　夜の庭 : 策略に備えスザンナを装った伯爵夫人を、ケルビーノが見つけます.
No.28 Finale ケルビーノ “そっと、そおっと、もっと彼女のそばへ行ってみよう”
“Pian pianin le andrò più presso”

第12場　伯爵はスザンナだと思い込み口説き始めます. 策略とは知らないフィガロに邪魔され、伯爵夫人はスザンナの振りをして伯爵に従って出ていきます.

第13場　二人が去ったのを見てフィガロが登場し、伯爵夫人姿のスザンナも様子を見ています. フィガロがスザンナの「不実」を訴えるのを聞き、思わず地声を出し、フィガロは. 状況(策略)を察します. ならばと偽の 伯爵夫人に「私の妻は奥様のご主人と浮気をしていますが、実は私も奥様をお慕いしております」と口説きはじめます. 見破られたとは知らないスザンナは「この裏切り者」とフィガロを張り倒します. 殴られたフィガロが笑いながらスザンナを抱擁しその声でわかったと打ち明けると、ようやく彼女もこのややこしい化かし合いに気づき、喜んで抱き合います.

第14場　スザンナに変装した伯爵夫人を見失しなった伯爵が登場します.
これを見て、フィガロは再びスザンナ扮する伯爵夫人に大げさに口説き始めます. これに気づいた伯爵はカンカンになり、皆を呼び集めます.

伯爵は浮気の現場を捕らえたと思い込みます. 隠れ場所から変奏した人が次々出てきます. ケルビーノ、バルバリーナ、マルチェリーナ、伯爵夫人に扮したスザンナらに続き、スザンナに扮した伯爵夫人が出てきます. 皆、何が起きているのか理解できません.

伯爵夫人が「私からお願いしたら許してくれますか」と聞くと、伯爵を始め一同、大驚きです. これで、全てを理解した伯爵は、伯爵夫人に心から謝ります. 許してくれるのかの言葉に、伯爵夫人は「私はあなたより素直なので…ハイと答えましょう」と応えます. 一同が伯爵夫妻を祝福して、幕となります.

No.28 Finale 第13場 フィガロ “すべてが静かで穏やかだ”　“Tutto è tranquillo e placido;”
スザンナ、伯爵夫人、バルバリーナ、ケルビーノ、マルチェリーナ、バジリオ、伯爵、アントニオ、バルトロが徐々に加わります.